

「もし～がなければ」を意味する if it were not for ～と if there were no(または not)～は、どのように使い分けるか

酒井 典久

インターネット上で、「この2つの表現はどのように使い分けたいのでしょうか」という疑問を目にしました。筆者自身も高校時代に if it were not for ～という表現を習ったとき、「この表現の it はどのような用法の it なのか」、また「if there were no(または not)～というように表現すると間違いなのだろうか」という疑問が浮かんだことを思い出しました。本稿では、以上のような疑問について考察します。

まず手始めに、if it were not for ～の中の it はどのような用法の it であるか、について述べたいと思います。このことについては、『英語の構造 下』(中島文雄)で触れられています。たとえば目の前で強風が吹き荒れていて、バドミントンができないとしましょう。これは次のように表現できます。(次の for は「理由・原因」を表す用法の前置詞で、意味は due to ～や owing to ～に相当します。)

- ▶ We cannot play badminton for this strong wind.
「この強風のためにバドミントンができない」

続いてこの事実を、強調構文を用いて表現してみましょう。(強調箇所は下線部)

- ▶ It is for this strong wind that we cannot play badminton.
「バドミントンができないのはこの強風のためだ」

最終的に、上記の強調構文の前半部分だけ(It is for this strong wind)を取り出して仮定法過去で表現してみましょう。「強風が吹いている(事実)」のに「強風がないなら(仮定)」と、現在の事実と反することを仮定するわけですから、ここでは仮定法過去を用いるのがふさわしいことがわかります。

It is for this strong wind(事実)
↓
If it were not for this strong wind(仮定)

このように if it were not for ～「～(の悪影響や恩恵)がなければ」という表現は、強調構文の前半部分が基になって成立した、また if it were not for ～の it は強調構文に由来する it である、と考えることができます。これで if it were not for ～がどのように成立したかをご理解いただけたと思います。そして、これに次のような主節(下線部)を続ければ文全体が完成となります。

- ▶ If it were not for this strong wind, we could play badminton.

「この強風がなければ、バドミントンができるのに(残念だね)」

ここで注目すべき重要なことは、上の例文の言外に次のような「話し手の明白な含意」が感じられる、ということです。

- ▶ It is for this strong wind that we cannot play badminton.
「バドミントンができないのは、この強風のせいだ(悔しい)」

このように、if it were not for ～を含む文の言外には、It is for ～ that...「…なのは～のせいだ(おかげだ)」という含意が強調的に示唆されます。同じような例をもう1つ挙げてみましょう。

- ▶ If it were not for the Internet, there would be no United States Chess League⁽¹⁾.

「インターネットがなければ、アメリカ合衆国チェス連盟は存在しないだろうに」

この文の言外には、次のような含意が示唆されていると考えることができます。

- ▶ It is for the Internet that there is the United States Chess League.
「アメリカ合衆国チェス連盟が存在するのは、インターネットのおかげだ」

この文(If it were not for the Internet,...)の話し手は、「このチェス連盟が存在しているのはインターネットのおかげだ。ありがたい」という気持ちを強調的に表現しているのではないのでしょうか。

では次に、仮定法過去の if there were no(または not)～「～がなければ」について考察します。この表現と if it were not for ～の使い分けを考える場合、言外の含意を比較するとよいと思います。

次の文の話し手は、先ほどの話し手とは対照的に、インターネットを手放して歓迎しているわけではなく、インターネットの存在に対して中立的です。そのためか、if there were no ～のほうを用いてインターネットの存在に言及しています。次の文中の This の内容は、「子供たちが不良サイトにアクセスしてしまうこと」です。

▶ This would not happen so easily if there were no Internet. It is a double-edged sword⁽²⁾.

「こんなことはインターネットがなければそう簡単には起きないだろう。インターネットは長所と短所を合わせもったものだ」

ここで、上の文の言外の含意を取り出し、先ほどアメリカ合衆国チェス連盟の存在に言及していた話し手の言外の含意と比較してみましょう。

(a) As there is the Internet, this happens so easily.

↑ ↓

(b) It is for the Internet that there is the United States Chess League.

いかがでしょうか。(a)を読んだだけでは、「インターネットが存在するために、こんなことが簡単に起こる」のがよいと言いたいのか悪いと言いたいのかははっきりしません。ところが(b)では、話し手がインターネットの存在から恩恵を受けていて、そのことに対し肯定的な判断を下していることがわかります。つまり、(a)は話し手のインターネットの存在に対する善し悪しの判断が不明であるため、中立的で間接的な響きがあるのです。一方(b)では、強調構文が用いられているため、話し手がインターネットの存在に対して肯定的な判断を下していることがはっきりと聞き手に伝わるようです。

さてこのあたりで、ネイティブスピーカーの感覚に言及してみたいと思います。ネイティブスピーカーの中には if it were not for ～という表現が強調

構文に由来するという背景を意識していない人がほとんどだと思います。そのため、If it were not for the Internet と If there were no Internet との間に、実質的な差異を感じることもなく、両方を同等に用いるという感想を述べるネイティブスピーカーもいるかもしれません。

確かに、この2種類の表現の差異は文脈によってはほとんどないという場合もあるでしょう。しかし、if it were not for ～や if it had not been for ～はもともと強調構文に由来するため、話し手が言外の含意を通して、聞き手に自分の立場をより明瞭に伝えやすいという側面があるのではないのでしょうか。

そのため、使い分けとして、話し手がある名詞の存在や影響に対する善し悪しの判断を聞き手に強調的に伝えたいときは、if there were no(または not)～よりも if it were not for ～のほうを用いるのがより望ましい、というのが筆者の考えです。

ここで、「(過去に)～がなかったら」を意味する if it had not been for ～(強調的で直接的)と if there had been no ～(中立的で間接的)が対照的に用いられた例を挙げてみます。まずは、話し手が「風は悪影響だった」という判断を伝えるのに、if it had not been for ～のほうを用いている例です。

▶ Friday would have been much better if it hadn't been for the strong wind blowing for most of the day⁽³⁾.

「強風がほぼ一日吹いていなかったら、金曜はもっとずっとよいものだっただろうに」

言外には次のような強調的な含意が感じられます。

▶ It was for the strong wind blowing for most of the day that Friday wasn't so good.

「金曜がそれほどよいものでなかったのは、あの強風がほぼ一日吹いていたせいだった」

Friday would have been much better... という文には、あの強風のために金曜が満足のいくものにならなかった、という話し手の悔しさが込められているのではないのでしょうか。

一方、if it had not been for ～に相対する表現は、if there had been no ～または if there had not been ～(中立的で間接的)になります。次の文は、物理学に関する話の導入部分です。

▶But now say a gust of wind makes the apple fall a little to the north of where it would have fallen **if there had been no wind**⁽⁴⁾.

「しかしここで、一陣の風が、無風だったとしたらそのリンゴが落ちたと仮定される場所より少し北にそれを落とすと仮定してみよう」

おわかりのように、この話し手は「一陣の風」に恨みなど少しもなく中立的な立場にいるため、if there had been no ~のほうを用いたと考えられます。

加えて、if there were no ~やif there had been no ~のほうにthe や one's などのつかない不定名詞(句)が主に用いられることは、この表現が名詞(句)の存在を中立的な立場で聞き手に提示する働きと関係があるのではないのでしょうか。つまり、この表現に主として用いられる不定名詞(句)が、その名詞と話し手のいわば“心理的距離”を示すことになり、その結果、話し手の中立性をより高めるのではないかと考えられます。1つ例を挙げましょう。(なお、次のno such thing as sleepは不定名詞句です。)

▶**If there were no such thing as sleep, what would you do at night**⁽⁵⁾?

「もし睡眠というようなものがなければ、あなたは夜何をするのでしょうか」

この文はあるインターネットサイトからのものです。そのサイトでは、訪問者が自由に意見や感想を述べています。上記発話の話し手は睡眠を単なる「存在」として客観的にとらえている、と考えることができるのではないのでしょうか。つまり、ここでもif there were no ~は話し手の中立的で間接的な立場を表す、と判断できるのではないのでしょうか。

一方、睡眠に対して肯定的な判断を下している話し手ならば、次のように表現することでしょう。

▶**If it were not for sleep, how the hell could we keep awake**⁽⁶⁾?

「もし睡眠がなければ、私たちはいったいどうしたら眠らずにいることができるというのか(言外の含意は、It is for sleep that we can keep awake.)」

また、if it were not for ~のほうはif there were no ~と異なり、(不)定名詞(句)に加え、代名

詞、人名、地名などにも直接用いることができます。1つ例を挙げます。

▶...civilization wouldn't have had jazz **if it weren't for New Orleans**⁽⁷⁾.

「もしニューオーリンズがなければ、文明にはジャズは存在しなかったことだろう」

この文を読んだ瞬間、話し手がジャズの発祥の地としてニューオーリンズをたたえていることが伝わってくるのではないのでしょうか。

結論として、主に不定名詞(句)を伴うif there were no ~やif there had been no ~などが、名詞の存在を聞き手に中立的に提示するために用いられる一方、しばしば定名詞(句)を伴うif it were not for ~やif it had not been for ~は、名詞の存在や影響に対する話し手の善し悪しの判断を聞き手に強制的に提示するために用いられるのが望ましいと言えるのではないのでしょうか。

参考文献

中島文雄(1983)『英語の構造 下』第5版. 岩波書店.

引用(URL)

- (1)<http://www.nytimes.com/2012/09/23/crosswords/chess/us-chess-league-is-loaded-with-talent.html>
- (2)<http://www.enotes.com/homework-help/describe-several-events-our-world-that-397649>
- (3)http://osettweather.blogspot.jp/2012_06_01_archive.html
- (4)<http://sandwalk.blogspot.jp/2012/09/boudry-vs-plantinga.html>
- (5)<https://www.ted.com/conversations/18756/if-there-were-no-such-thing-as.html>
- (6)http://www.munseys.com/disktwo/hereluck.htm#1_0_5
- (7)<http://looka.gumbopages.com/archive/2005-05.html>

(新潟県立三条高等学校教諭)